



2019年11月15日  
東日本旅客鉄道株式会社  
水戸支社

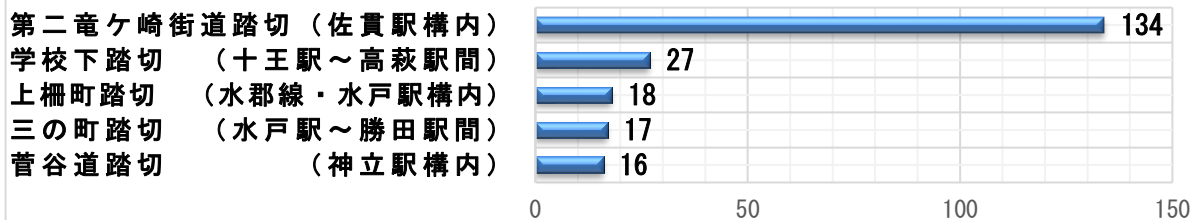
## 「第二竜ヶ崎街道踏切」安全対策の取組みについて

JR東日本では、会社発足以来、安全を経営のトッププライオリティーと位置づけ、安全性の向上に取り組んでまいりました。鉄道運転事故のうち鉄道人身障害事故および踏切障害事故件数については下げ止まり傾向ですが、より安全な踏切の実現に向けた取組みが必要です。水戸支社においても踏切事故防止に向けて、様々な安全対策を進め、踏切障害事故の着実な減少に取り組んでいます。踏切安全対策について第二竜ヶ崎街道踏切(佐貫駅構内)における取組みを紹介します。

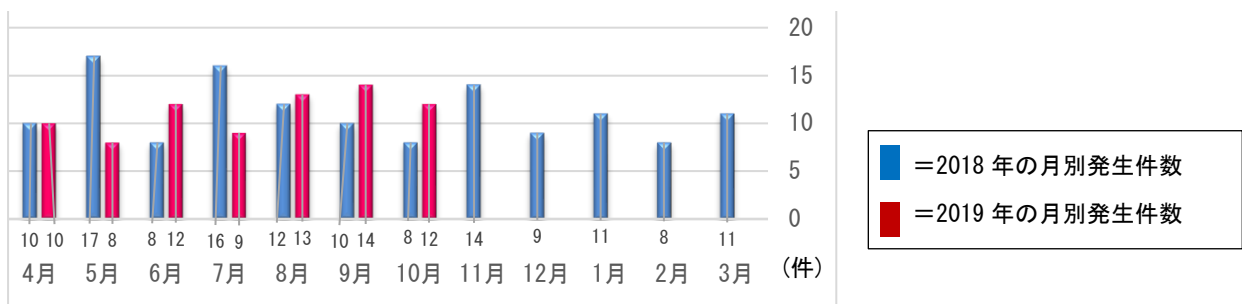
### 1 水戸支社管内における踏切支障件数について

現在、水戸支社管内における、623箇所(2019年3月現在)の踏切において踏切支障件数が最も多い踏切は、佐貫駅構内の第二竜ヶ崎街道踏切です。継続した安全対策を実施しておりますが、依然として支障件数が高い水準にあります。

【2018年度 水戸支社 踏切支障件数 上位5踏切】



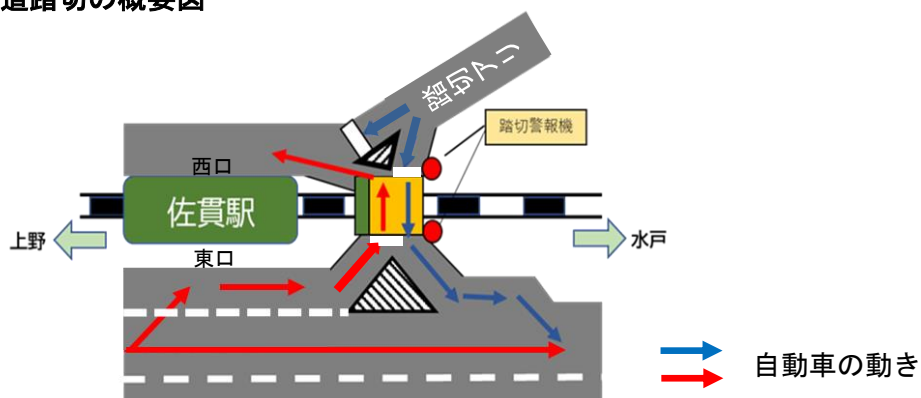
【第二竜ヶ崎街道踏切支障件数の推移】



#### 踏切支障とは

運転士が踏切上において歩行者又は自動車等を発見したため列車を停止させたものや自動車等の「停滞」により踏切支障報知装置を操作、又は踏切障害物検知装置の作動によるもの等

## 2 第二竜ヶ崎街道踏切の概要図



## 3 当社における主な取組み

### (1) 踏切道のカラー舗装

「2019年1月23日施工」

踏切道内の歩行者と乗用車を分離することにより、スムーズな踏切横断が可能となり、特に歩行者が乗用車と接触するリスクを軽減する対策です。



【施工前】



【施工後】

### (2) 踏切事故防止キャンペーンの実施

踏切を横断する皆さまに対して、安全にご利用いただくよう踏切等での啓発活動としてグッズ配付や学校・警察署等と連携した活動でPRをしています。



【踏切・学校等での啓発活動イメージ】

### (3) 今後の取組み

#### ① 全方位警報灯の増設

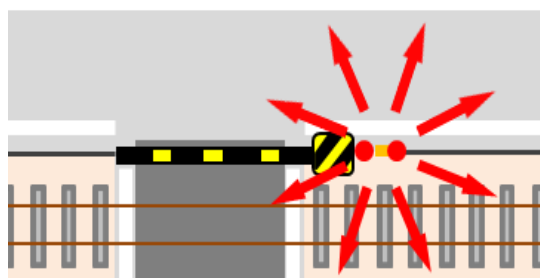
「2020年3月までに施工予定」

列車の接近を知らせる踏切警報灯について、視線が下がる傾向にある高齢者や側道からの踏切に進入する自動車ドライバー等が見やすい「全方位警報灯」を増設します。



【全方位警報灯】

360度どの方向からも視認可能



【イメージ】

#### ② 錯視サイン路面標示の導入

「2020年3月までに設置予定」

歩行者や側道から踏切に進入するドライバーに対して踏切を渡る前の一旦停止を促します。道路側2か所、歩道側2か所に導入予定です。



【イメージ】

#### (4) 龍ヶ崎市との連携

龍ヶ崎市と連携し様々な取組みを実施しました。

- ① 東口側と西口側の道路標示であるデルタゾーンを縮小化することにより進出する車の流れを円滑にして踏切内の滞留を防止
- ② 踏切接近時の路面標示「踏切あり」を施工することで注意喚起
- ③ 踏切停止線を明確化（再施工）することで踏切手前の一旦停止を促す
- ④ 道路鉾の移動により踏切進出時の自動車の滞留を防止

